

—地方講演会—

平成2年度北海道支部地方講演会報告

気象庁長期予報課（前札幌管区气象台予報課） 石原 洋

平成2年度の地方講演会は11月19日に室蘭市で行われた。講演会のタイトルは「胆振地方の気象と噴火湾の未来構想」で、地方講演にしてはスケールの大きいタイトルであった。講演題目は4つで、それぞれについて簡単に内容を以下に述べる。

(1) 「胆振地方オロフレ山系の大雨を探る—北大理学部レーダーによる—」

北海道では雪はたくさん降るが、雨はたいしたことないと思われがちである。ところが胆振地方オロフレ山系の南東斜面は、国内でも指折りの豪雨地帯で、毎年夏に大雨に見舞われている。そこでこの大雨をレーダーでとらえ、そのメカニズムを探るという内容であった。

(2) 「天気予報の現場から—最近の雨量予報—」

室蘭地方气象台で天気予報を作るときに使う資料（数値予報天気図）を一般の人に紹介し、特に今回は雨量の予想についての説明がなされた。実際に出された予報や注・警報も取り混ぜて、まさに予報現場の再現という感じであった。

(3) 「噴火湾の風と波」

先の2題は胆振の雨を中心に話が進められたが、後半の2題は一転して海上に話に移った。噴火湾は南東方向にだけ開いている丸い湾で、その中での風と波の振舞いについて説明がなされた。

(4) 「噴火湾におけるフローティング・ステーション構想」

これは広大な噴火湾の海上に、レジャー施設や海洋研究施設などを搭載した多目的建造物を浮かせるという構想である。気象学会の講演としては、かなり斬新な内容であった。

講演会は月曜日の午後に行われたので、参加したくてもできない人もいたと思うが、その割にはたくさんの人の参加があり、喜ばしいことであった。ただ、会場が市民会館の大きなホールで、講演者が聴衆より一段高いところから話をして、聴衆との距離が大きかったせいか、質問がまったく出なかったことが少し残念であった。このような講演会は、地方都市において気象の知識の普及や气象台の仕事の紹介などができ、また運営する側としても為になる話が聞けるということで、これからも続けてもらいたいと思う。

最後に、今回の講演会を開催するにあたって、一般市民に対するPR、及び会場の準備、当日の運営などにおいて数々のお手伝いをいただいた、室蘭地方气象台の職員の皆様に心からお礼を申し上げます。